院長
コラム

一緒に考えましょう
健康のこと
医療のこと
76

市民病院　院長　**神谷里明**

戦争と医療

日本国内では戦争が終わって77年が経とうとしています。しかし世界に目を向ければいたるところで戦争は起きています。戦争では人が傷ついたり、亡くなったりします。傷ついた人を治療するのは医療者の役割です。目的はその人の命を救い、傷を治し、元の生活または元に近い状態に戻れるようにするためです。しかし以前から考えていたことがあります。軍人を治療するとはどういうことなのかです。軍人を治療し元と同じ状態になればまた戦場に戻る可能性があります。そこでまた負傷したり、死に至ることもあります。何のための医療か考えてしまいます。治療を必要としている人がいれば治療を施す。それは医師、看護師など医療従事者としては当然のことです。しかし当然のことをしてもその人がまた同じ危険を冒すような状態に戻すことが医療なのか?そこにジレンマを感じます。当然戦争が起きないことが1番です。しかし世界中で戦争のなかったことは20世紀以降なかったと思います。戦争を常に行っている世界が今そこにあります。医療に従事しているものとしては目の前の患者を救うことは当然ですが、そのような傷つく人が出ないようにするような活動も必要だと考えます。日本では8月15日がそのきっかけの日になると思います。もう今の時代子どもたちに前の戦争といっても第2次世界大戦は思い浮かばないかもしれません。まだ記憶のある大人が自分の経験や考え、気持ちを子ども、孫たちに伝えていかなければなりません。戦争のない時代を世界中の子どもたちが生きられるように願って。